



- ◆ あそび・まなび・たべる
- ◆ 老壮若が出会い、遊び・子育て・学習を支援。
- ◆ 近所に子ども食堂を！

すくすく通信 第9号
2020年8月20日発行
発行：一般社団法人すくすく広場
代表：丸山綱男
事務局・発行所
〒347-0031 加須市南町 7-67 戸恒方
Email tozune@outlook.jp
<http://k-sukusuku-hiroba.org/>

新理事長ご挨拶

“今まで通り”の転換が未来をひらく

一般社団法人すくすく広場

新理事長 丸山 綱男

半年近くが過ぎても、新型コロナウイルスの感染が納まるどころか深刻な事態に入り、すくすく広場の開催も“今まで通り”とはいかず苦慮しています。しかし、この想定外の事態に直面して「努力とは結果で示すもの 目標とは最後まで挑戦し越えるもの やる気とは動いて見せるもの」という言葉を思い出します。

「努力・挑戦・やる気」を出して、今まで通りの考えを転換していけば、必ず未来はひらくことができると思います。



2020年度定時社員総会の報告

本年度の社員総会は第5回を数えますが、コロナ禍のもと、通常の方法が採れず、35名の社員には事前の書面審議をふまえ、郵送による表決をお願いしました。事務局の置かれる戸恒宅に、坂本佳代子理事長他3名が議長、監査報告者、署名者、議事録作成者として集まり、議決権数23個（内委任状19通）を持って、5つの議案を無事採択して終了しました。

このうち財務諸表と2020年度活動計画はホームページに掲示してあります。なお、理事会で新理事長に丸山綱男さんを選任し、新体制がスタートしました。

コロナ禍の下で=ねばり強く

①今年は3月からこれまで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子どもを集めてのあそび広場や小中高生

勉強会の活動ができなくなりました。6月8日以降公共施設などの利用が徐々に再開されていますが、利用者の定員が2分の1以下に、施設内での食事の提供も禁止されており、8月を迎えた今も、従来のような活動を再開するには困難な状態が続いています。

②3月9日から学校が休校となったことでは、驚いてばかりではいられない大変な事態に直面させられました。学習や遊びの保障はどうするのか、給食はどうなるのか—各学校での対応策を相談する余裕もなく、即、一律に措置が取られた訳で、その日から町の中に子どもの姿が消え、家の中に押しこめられた子どもたちは、ドアホン1つにも「どうしようか」とおびえる状態に置かれました。

③こうした事態の中、すくすく広場として、（それ以前に近所の大人として）何ができ、何をすべきか、会議も十分に開けない中で連絡を取り合い、小規模ながら様々な取り組みをしてきました。

①アンケートの実施 すくすく広場に参加する家庭のうち、住所の把握できている家庭に協力していただき、初めてのアンケートを郵送で実施しました。家での生活の様子や、困っておられることなど、活動をスタートさせるのに役立つ有意義な調査となりました。

②お弁当配達プロジェクト・前期 加須市役所が給食センターから食材を提供してくれました。またその場集った市内の子育て応援団体の相談から、小学校に働きかけて必要な子どもと家庭を紹介してもらいお弁当を配達するプロジェクトが3月19日にスタートしました。

イベントへの炊き出しなどで十数年の歴史を持つ「しずくの会」のベテランをリーダーに、すくすく広場の調理スタッフが協力し、加須社協のはからいであけぼの園の調理室をお借りして、31食を6回、2つの小学校ルートで、すくすくのボランティアが配達しました。この時に、加須とあいせんの2つの子育て応援パントリーが冷凍食材の提供や保管に協力してくれて、すく

すくを含めた「子育て応援3団体」の結束が一段と強まりました。

⑦お弁当配達プロジェクト・後期 「3密」を徹底するため、調理室の借用ができなくなり一旦中断しそ



になったピンチには、南町のつくしの家の吉田夫妻が「それなら私の家で少人数で調理しましょう！」と言ってくれて、20食での配達を6月8日に学校が再開する直前までの2か月間を継続できました。各校長先生の理解と協力で、2つの小学校ルートを開けたのは大きな1歩でした。

⑧フチ・パントリー活動 どの町子ども食堂も活動を制約される中、埼玉県子ども食堂ネットワークでは本間香代表らの発案と奮闘で、県内の食品企業や各市の給食センターから使用されなくなる食品を大量に提供してもらい、13のエリアが受け取って各ステ



ーションに搬送し、いくつもの子ども食堂に分け、持ち帰ったその日のうちに子ども食堂パントリーを開いて各家庭に配布するという活動を前後6回行いました。最盛時には26トンにもなる食品でしたが冷凍ものも多く、衛生に留意しながら事故なくお届けするには、大変な労力と注意が必要でした。すくすくは羽生の杜さんと一緒にステーションキャプテンを引き受け、5つの市に配分するほか、市内では、にほんごの会6、北小浜みんな子ども食堂4、騎西ルート4、すくすく本体17の計31家庭と、つくしの家25家庭にお配りする仕事を担いました。この間、つくしの家では専門のチームが全期間担当して下さったほか、加須とあいせんの子育てフードパントリーが地元の協力者からのお米やお肉、野菜の提供と、冷凍保存などの協力を買って出してくれ、食品の扱いなどの専門的な知識も伝授してくれました。市役所では子育て支援課が先頭に立ち、これを応援するフードドライブ（食品を集める活動）も始めてくれました。

また、このパントリーと先ほどのお弁当配達には、(株)ベルーナ様、大阪王将キッズサポート様、真如苑様、赤い羽根募金様などから物資と資金の援助を受けることができ、埼玉県少子政策課からは冷凍庫の支給があり、おかげで充実した内容にすることができました。

⑨かぞぐるみおべんとプロジェクト これまでに述べた活動は、どれも、ボランティアさんたちのひとかたならぬ情熱と、地域の皆さんの理解の広がりによって支えられてのものですが、それにしても私たちの力が担える範囲はごく小さなものでしかありません。一方で、このような厳しさの中で、子育て中の家庭を何か少しでも応援したい…とお考えの方はたくさんいらっしゃるはずで、その気持ちを具体的に目に見える形にしていくことはできないか？もし、加須市の町ぐるみでこのような雰囲気盛り上げることができれば、今後も、夏・冬の休み中など、子どもたちが頼りに出来る一層すてきな街になるのではないかと。

そんな折にドンピシャの企画で応援してくれたのが全国子ども食堂応援センターのむすびえ基金です。

「コロナ禍の中で苦闘する飲食店と子育て家庭を同時に応援する」企画募集でしたが、すでに2つの子育て応援パントリーが活動する加須市では必要度の高い家庭に直接届ける130余りのルートを持っていましたし、ちょうど飲食店が生き残りをかけたテイクアウト販売にカゾテクというホームページを立ち上



げて頑張っていました。そこでこの2つを結び付け、町中の飲食店がお弁当販売や、おべんと券での食事利用に協力することで、町ぐるみの子育て応援を進めようとの子育て応援3団体による企画書が見事に採択されて、7月18日から9月18日までのこのプロジェクトがスタートできたのです。公告業を経営しカゾテクを主宰する佐伯武久氏の全面的な協力を得て、協力店は24を数え、交渉に行った会員たちは、「待ってましたとばかりに積極的なのに驚き、感動した」と言

